
仰天世界の旅記録

志摩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仰天世界の旅記録

【Nコード】

N3456J

【作者名】

志摩

【あらすじ】

さかがみこつじろう
坂上孝二郎16歳、異世界にて目を覚ます。

何故か異世界に来てしまった、普通の主人公がとりあえず生きる為に頑張る話。

スカッと爽快な話を望む人にはお勧めできないくらいゆったり物語。ストーリー

旅の始まりは盛大な溜め息と共に。 (前書き)

前書き 旅の始まり、序章です。

皆さんもゆったりと楽しんでいって下さいませ。

旅の始まりは盛大な溜め息と共に。

朝、目が覚めて目の前にあったのは、見慣れた白い天井ではなく、
抜けるように青い空と、見たこともない怪獣のように馬鹿でかい鳥
であつた。

……待て。今、とっても可笑しな単語ワードがあつた気がする。

青い空と、怪獣、だと？

………。

………あー、テストス。
只今俺の頭のテスト中。

………！！？！

う、お、おおおち、落ち着け俺！！
そう、リラックスだ。リラックス！
リラックスと言えば深呼吸！

さあっ、ヒッヒッフーヒッヒッフー…っってお決まりのボケかまして
る場合か！？

何やってんだ？混乱しすぎだぞ？俺！もっとCOOLになれよおお
おお！！！！

って、俺やつぱ頭のどっかがおかしくなってる？うん、何、これ危険信号？

え？あれ、もしかして俺は黄色い救急車にお世話になる事になるのか？？

……いや、そんな、まさかねえ？？

だってほら、これ、幻覚とかじゃないし。

太陽が眩しい・土の感触がある・それに空は青い！！

なーんだ！俺、超正常じゃん！心配して損した。

あー…良かった

「って、ぜんっぜん良くねえわ！！馬鹿か！！」

そう、状況は全く良くなかった。寧ろ最悪だった。

これが幻覚じゃないのだとすると、俺は必然的にこの状況を現実として受け入れなければならなかったのだから。

「ここまで来ると夢オチも望め無い……よなあ……。ハアア……。」

坂上孝二郎^{さかがみこうじろう}16歳。

何故か異国（否、世界すら違う）の地にて目を覚ます。

そして潔く悟るのであった。

この最悪な目覚めと共に、俺の人生で最初にして最大の“旅”が幕を開けた事を。

「とりあえず誰かつ、たっすけてくださあぁあぁー……いつ……!!」

開始1時間、既に瀕死状態な勇者です。

あれから俺の体内時計が正しければ一時間くらい経った。

足の裏から伝わる砂漠の砂の熱さと照りつける太陽、砂嵐に孝二郎、既にノックアウト寸前

え？頬を伝ってるのは何かって？……こ、これは汗なんだからねっ！！別に泣いてなんかいないんだからね！！

……虚しい小芝居は此処までにしておいて。

現在の状況を皆様に分かりやすくご説明しようと思う。

まず、暫くは起きた場所で「遭難したらその場を動くな」の鉄則に従いじっとしていた。

しかしながら、現実はいくも厳しいものでして！！当然ながら誰も通り過ぎなかったわけだ。

だから今はただ砂漠の砂と化していくのを待つよりは、としようがなく歩いていく次第。

『救助は元からさほど期待していないので落胆などは無い』

とか言えれば格好もつくかもしれないが、俺にそんな精神は持ち合わせていない。

現実はいくにも精神的にも全くド畜生といった感じに駄目駄目状態です。

此処までこれたのも、お得意の現実逃避を駆使しまくったおかげだ。

……世の中、何が役に立つかわかんねっ！！現実逃避万歳！！

そんな勇敢な戦士（仮）、坂上孝二郎16歳。

勇者の装備は携帯とポケットに入ってたすでに溶けてる飴玉が3個。服装、体操着上下+ジャージ上下。

かつて、こんな装備で砂漠に旅に出るような勇者がいたであろうか？

現実逃避を繰り返し更に暑さで頭が少し可笑しくなっているのは自覚済みなのでツツコミは不要である。

（大体、只の一般人がこんな装備で砂漠にでるかっつてんだ！！！いや、勇者だつて此処まで無謀な挑戦しねえよ！！！モンスターでもでたら即死だわ馬鹿！）

俺の脳裏には生まれてから数度も感じた事の無い“死”という文字がチラついている。

……家に、帰りたいです……パソコンに触れさせてください……

照りつける暑さに目も虚ろになってきたころ、俺はそれと出会った。

「……卵？」

砂漠に無造作に置かれていた直径20cmくらいの茶色っぽい卵。ほとんど無意識でそれに近づいた。

卵は高熱の砂漠の砂の上にあるにも関わらず熱を持ってなく、ほどよい冷たさが気持ちよいくらいだった。抱きしめると思わず溜め息が出た。

「つつめてー！！……………」

左右かくにーん！！

異常なーし！

人影なーし！

てれれっつてっつてー

勇者は卵（保冷用）を手に入れた！！

卵（何故か冷気を纏っている）のおかげで幾分か気持ちいが楽になったところで再び歩き出す。

実は先程から遠くに見えていたのだが、森があるのだ。
砂漠に映える緑がいつそ神々しく見える。

まさしくオアシス！！！！楽園！！！！天国！！！！……最後のは
洒落にならんから止めとこう。

というわけで、勇者は手に入れた保冷卵をお供に森へ歩みを進める
のだった。

開始1時間、既に瀕死状態な勇者です。（後書き）

遅くなった上に短いつてどうかと思う……。

いや、すいません。

次回はオアシスに行つて来ます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3456j/>

仰天世界の旅記録

2011年10月6日14時20分発行